

ウイルス・免疫検査分野活動報告

ウイルス検査 免疫検査分野
山口 正悟

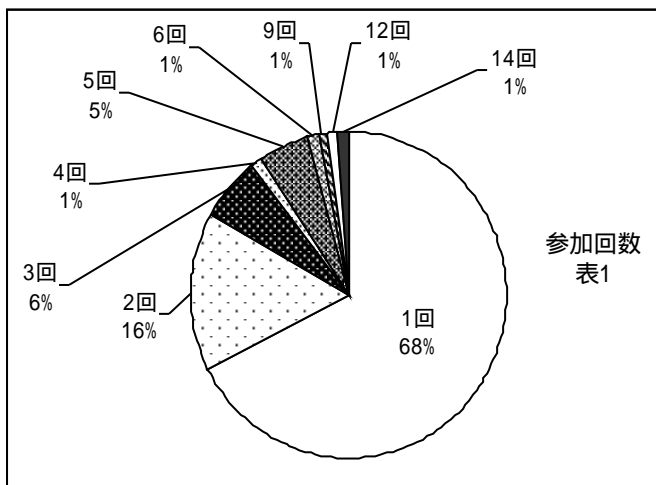
目的

平成13年度より平成16年度までの免疫検査分野・ウイルス検査分野(一部旧血清研究班)の4年間の研修会状況を再確認し、他府県の研究班の活動と奈良県の活動との比較も行ったので報告する。

活動内容

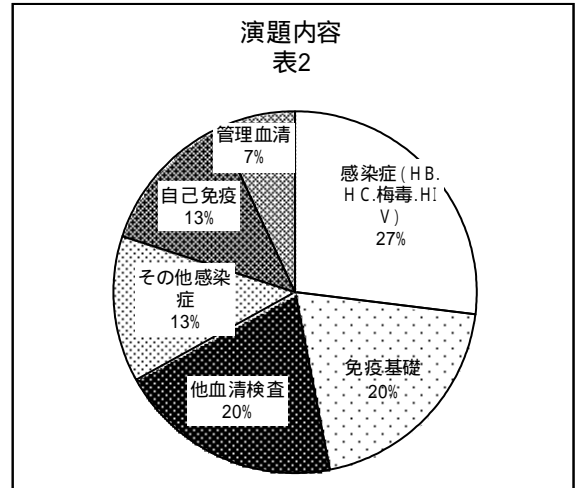
平成13年度より平成16年度の4年間で13回の研修会を行い、平均回数3.25回/年であった、会員総数502名(平成17年2月現在)中85名・賛助会員3名・非会員7名、計95名の参加があり、13回の活動で延べ191名の参加があった。また1回あたりの出席者数は、14.7名であった。

個人別参加回数は表1の通りであった。



参加施設は、29施設で、地区別では北部が7施設・中部が2施設・南部12施設であった。会場別の参加者数をみると北部(三室病院)開催が3回・41名、中部(天理よろづ相談所病院)開催が2回・17名、南部(奈良県立医科大学附属病院・万葉ホール・奈良県健康づくりセンター)開催が4回・61名で、各地区の一回あたりの出席者は13~17名であった。

演題内容では、感染症関連・免疫基礎・一般血清検査項目の順で多かった。(表2)。



他府県の活動状況

Web上から検索し得た昨年1年間の25府県の研修会は年間平均回数が3.56回であった。奈良県の年間平均回数は3.25回で、ごく平均的な回数であったが、内容では腫瘍マーカーの研修会が奈良県で実施されていなかった。

結果

参加者の出席回数は1回のみが多く、全参加者の68%を占め、今後リピータの確保が分野の活性化には必要と思われた。会場設定では、参加施設の出席率が中部地区で2施設と少なかったが、出席者数は地区間での差がほとんどなく今まで通りでも良いと思われた。

他府県との比較では、研修会回数がほぼ同じ3回であった。内容では腫瘍マーカーの研修会の必要性があった他は、ほぼ同様であり他府県と遜色なかった。

結語

研修会回数が他府県の平均とは言いながら他分野に比して、いささか少ないのは否めない。また、固定会員の獲得も研究班活動にとって必要不可欠であり、希望演題等を調査し、定期的な開催も行いたい。会員諸氏には是非とも力をお貸し頂き、活力ある活動をして行ければと考える。